

2006年11月10日

山田町・山田石塚町防災訓練説明会

●防災訓練の実施日時

11月12日（日）9時～11時（予定）

※当日は、山田公民館で防災倉庫器具使用訓練，栄小学校で校区防災訓練も実施。

※山田公民館には訓練本部のテントを設営

※雨天の場合，7時30分頃までに中止・実施の連絡あり。小雨程度であれば訓練は実施。

※今年は訓練開始を知らせる合図はなし。各自9時に自宅を出て訓練を開始。

（一部例外あり）

●防災訓練のグループ構成

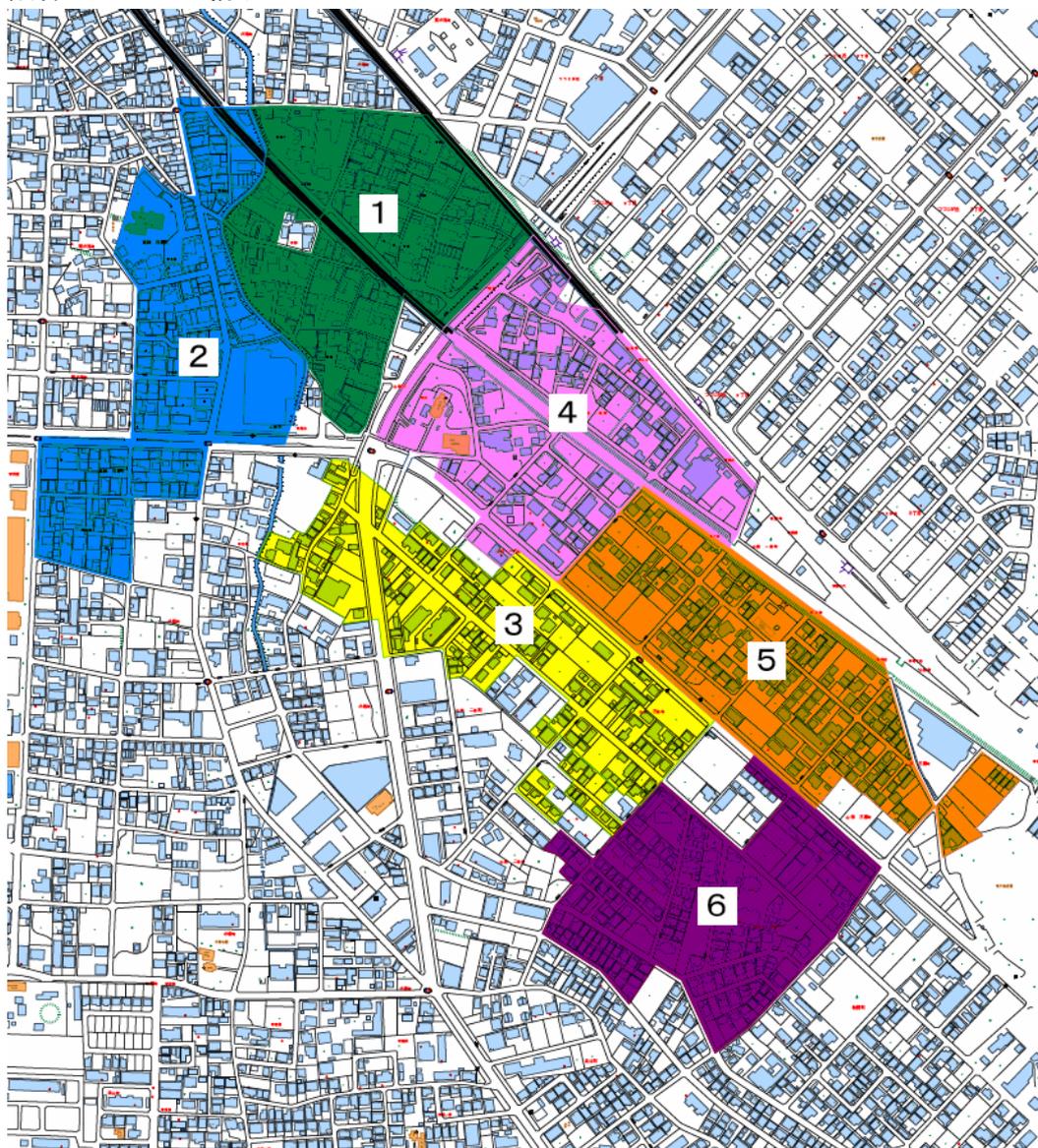


図1 防災訓練のグループ分け

●防災訓練の概要・流れ

11月12日(日)9時に訓練地震発生

山田町・山田石塚町

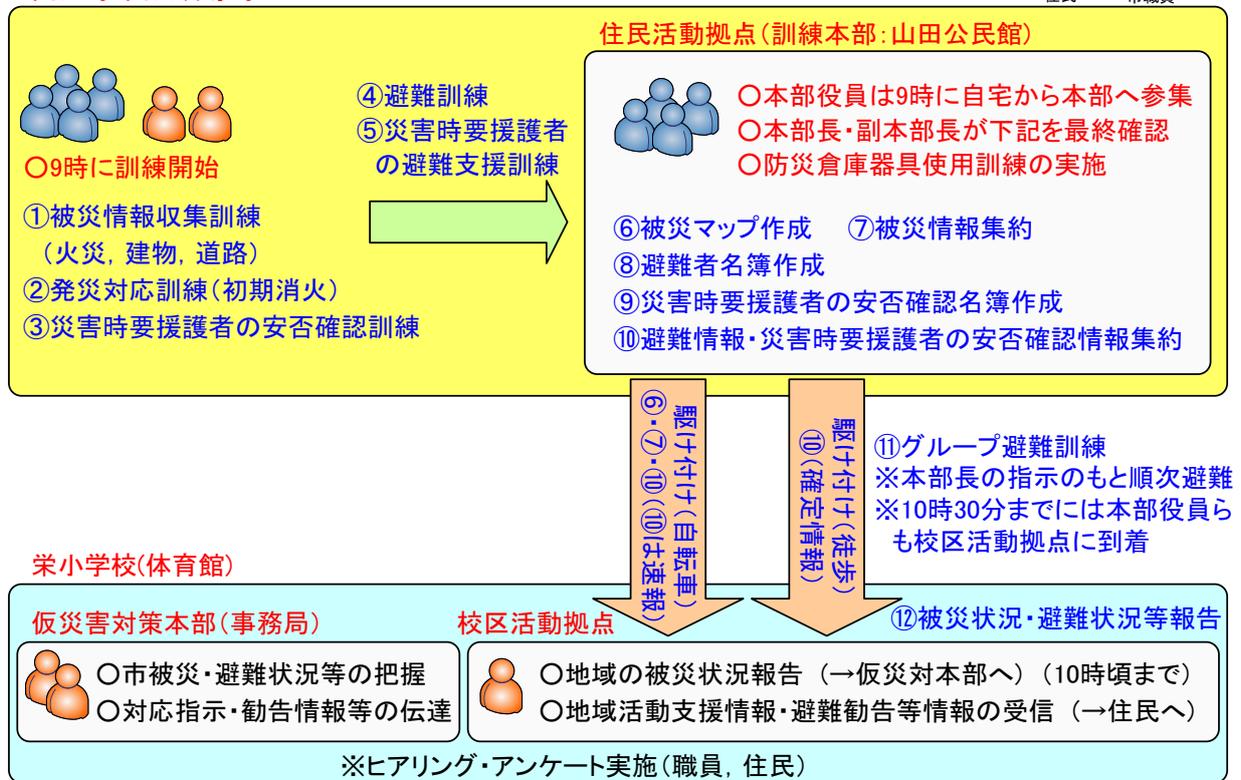


図2 防災訓練の内容と主な流れ

●本部役員・リーダー氏名一覧 (※防災倉庫器具使用訓練の担当者は除く)

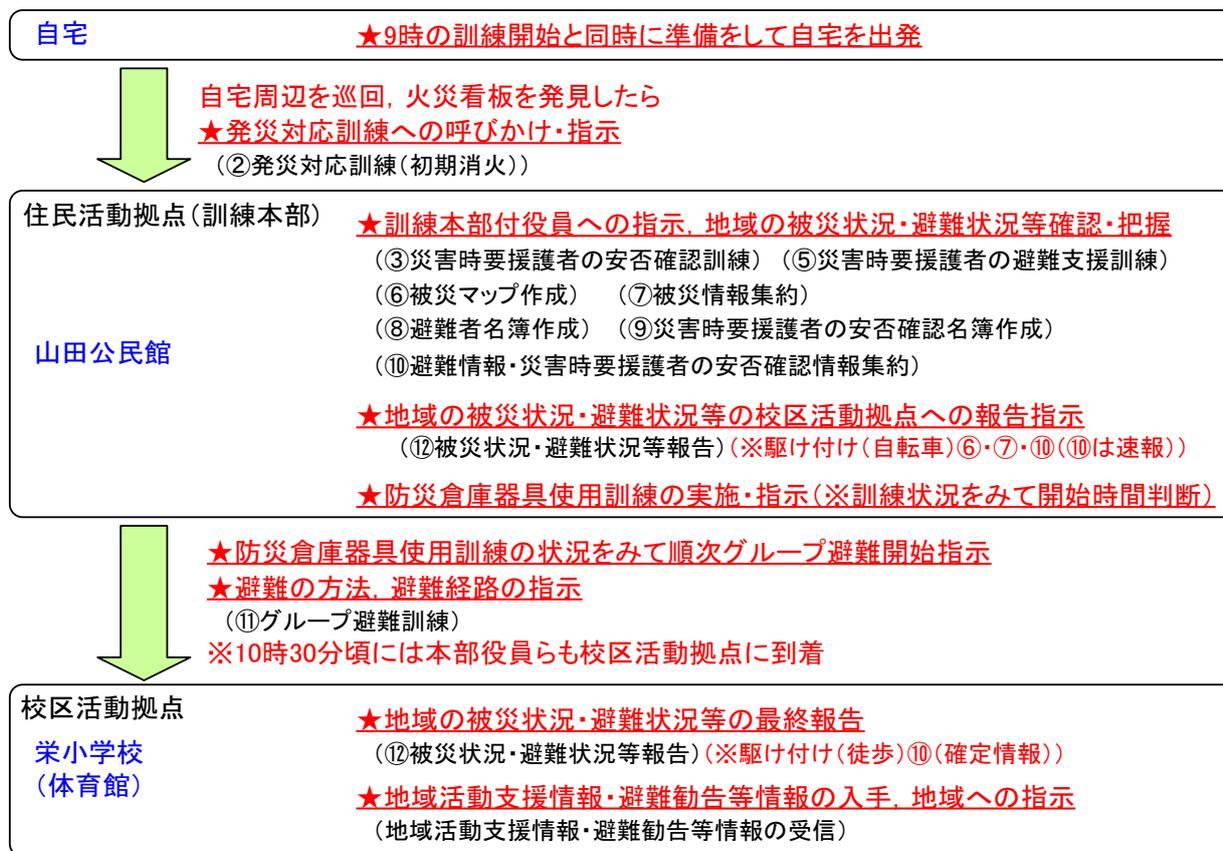
本部	顧問：西 義雄 本部長：犬塚 幸弘 副本部長：大武 鴻介, 戸川 福一		
訓練本部付	(広報：鈴木八成)	グループ 1~3	グループ 4~6
	被災情報集約	浅野 寛	松井 睦夫 (報告者)
	避難者名簿作成, 避難情報の集約	住吉 清乃	加藤 秀仁
	要援護者の安否確認・避難指示, 要援護者情報の集約	吉田 三行 民生委員 鈴木 幸子 民生委員	中川 英昭 民生委員 長坂 正晴 民生委員
訓練班	被害情報収集, 被災マップ作成	グループ 1: 中山 隆良 グループ 2: 和田 良子 グループ 3: 寺沢 義夫	グループ 4: 尾藤 正昭 グループ 5: 村田 英男 グループ 6: 松井 香
	発災対応訓練	(各グループの上記リーダー+3名)	
	要援護者の安否確認・避難支援	グループ 1: 岩田 勲 : 金子 辰雄	グループ 4: 横田 浜生 : 中島 佳生
	要援護者の安否確認	グループ 2: 杉山 昇 グループ 3: 岡崎 馨	グループ 5: 浅野 みさ子 グループ 6: 俵田 康人

●その他

- ① 訓練当日は、地域内で実施されている防災訓練の様子を取材カメラが撮影しているかもしれませんが、カメラを気にせず、普段通り訓練を実施してください。
- ② 山田町・山田石塚町内には都市計画課職員 2 名と工学院大学・豊橋技術科学大学スタッフ 6～8 名、山田公民館には防災対策課職員 1 名と工学院大学・豊橋技術科学大学スタッフ数名が 9 時前までに待機、地域防災訓練を支援
- ③ 栄小学校体育館の校区活動拠点には防災対策課 1 名が待機、住民活動拠点からの情報収集、体育館内に設置した仮災害対策本部事務局（防災対策課 2 名が待機）へ情報伝達等を実施
- ④ 栄小学校体育館内の校区防災拠点（防災対策課職員が配備）の見学について
（住民の方は希望者のみで結構です）

- ・栄小学校体育館に到着後、地域住民の方が主体となって収集集約し、栄小学校体育館内に設置した校区活動拠点から仮豊橋市災害対策本部事務局へ報告された被害・避難情報が事務局側でどのように活用され、またそれが災害時の地域住民の応急対応行動に有用な情報として校区活動拠点へどのように反映されていくのか、そうした ICT（Information and Communication Technology）を援用した訓練にご参加、ご見学頂きたい（10 時 40 分頃予定）。
- ・その結果を踏まえ、地域住民という立場からご評価頂きたい（11 時頃には終了予定）。当日は簡単なヒアリング・アンケート項目を準備する予定。

顧問（西）・本部長（犬塚）・副本部長（大武，戸川）の動き・役割



(※校区活動拠点，仮災害対策本部事務局の見学等，校区防災訓練)

図3 顧問・本部長・副本部長の動きと役割の概要

その他

- ① 「地域の被災状況・避難状況等の校区活動拠点への報告指示」では，被災マップと被災状況集約表が完成次第，報告者（自転車で移動）へ被災マップと被災状況集約表（確定値）と避難状況等集約表（避難情報）（速報値）（※訓練の状況により避難者数の速報値がない場合あり）を校区活動拠点にいる防災対策課職員に渡すように指示（※校区活動拠点の情報入力担当者が情報入力端末から被災マップと避難状況等集約表を基に被災情報と避難者数を入力，さらに被災状況集約表と避難状況等集約表をIP電話のFAXで仮災害対策本部事務局へ送信）。
- ② 「地域の被災状況・避難状況等の最終報告」では，本部長または副本部長が避難状況等集約表（避難情報・要援護者の安否確認情報）（確定値）を校区活動拠点にいる防災対策課職員に渡す（※情報入力担当者が情報入力端末から避難状況等集約表を基に確定した避難者数を入力，さらに避難状況等集約表をIP電話のFAXで仮災害対策本部事務局へ送信）
- ③ 「地域活動支援情報・避難勧告等情報の入手，地域への指示」
地域住民の方が主体となって収集集約し，校区活動拠点から（仮）豊橋市災害対策本部事務局（栄小学校体育館内に設置）へ報告された被害情報が事務局側でどのように活用され，またそれが災害時の地域住民の応急対応行動に有用な情報として校区活動拠点へどのように反映されていくのか，そうしたICT（Information and Communication Technology）を援用した訓練にご参加，ご見学頂き，ご評価願いたい（11時頃には終了予定）。当日は簡単なヒアリング・アンケート項目を準備する予定。

被災情報集約担当者（浅野，松井）の動き・役割

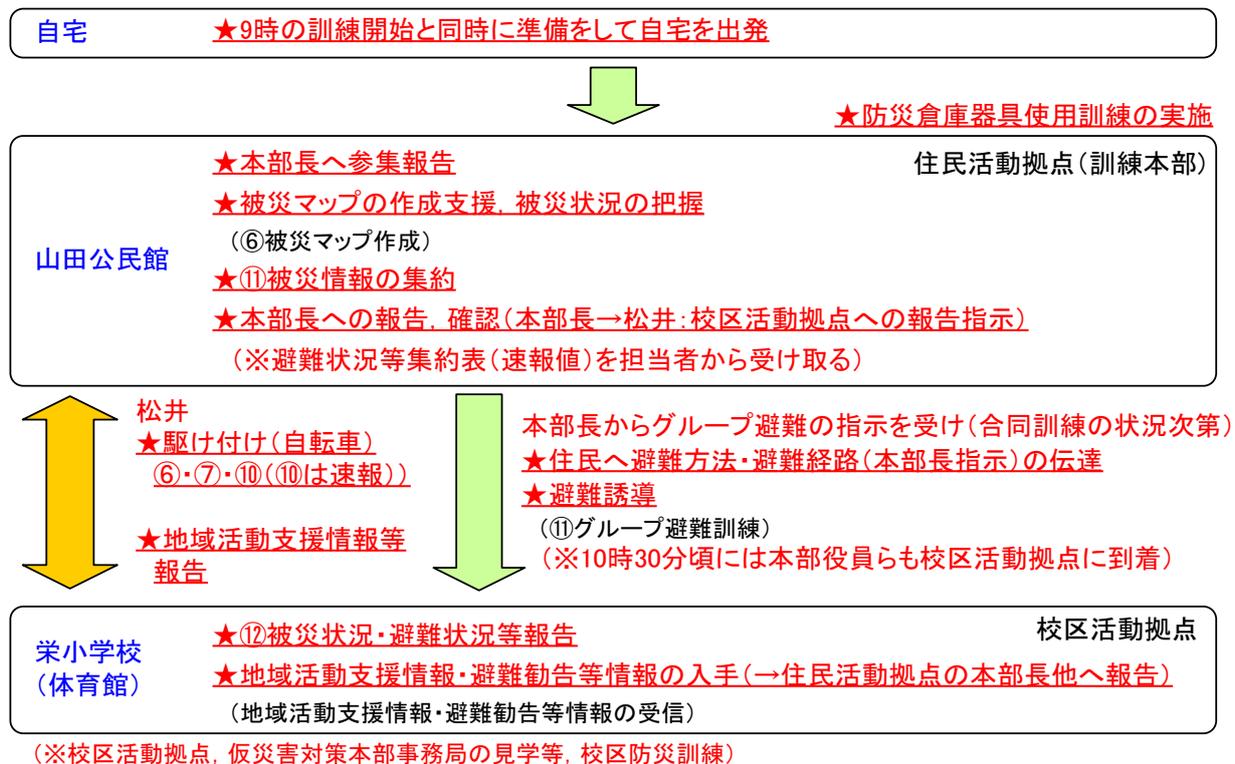


図4 被災情報集約担当者の動きと役割の概要

訓練詳細

- 1) 9時に自宅から住民活動拠点（山田公民館）へ参集，本部長へ参集報告
- 2) 被災情報収集担当者が到着後，被災状況の報告を受け，被災マップの作成を支援，被災状況の確認
- 3) 情報収集担当者が作成した被災マップ（図5）を基に，まず校区活動拠点報告用の被災マップをつくり，次にグループ単位および全体の被災情報を集約（表1）
- 4) 校区活動拠点報告用の被災マップおよび被災状況集約表が完成したら，本部長へ報告。本部長が確認後，本部長から報告者（松井）へ校区活動拠点への報告の指示あり。
- 5) 報告者（松井）は，校区活動拠点報告用の被災マップと被災状況集約表，そして担当者から受け取った避難状況等集約表（速報値）（※訓練の状況により避難者数の速報値がない場合あり）（表2）を持って，自転車で栄小学校体育館内に設置した校区活動拠点へ移動。
- 6) 校区防災拠点報告用の被災マップと被災状況集約表，ならびに避難状況等集約表（速報値）を校区活動拠点の防災対策課職員へ渡し，地域の被災状況・避難状況等を報告
 ※校区活動拠点内の情報入力担当者が被災マップと避難状況等集約表を基に情報入力端末から被災情報と避難者数（速報値）を入力，さらに被災状況集約表と避難状況等集約表をIP電話のFAXで仮災害対策本部事務局へ送信
- 6) 校区活動拠点の防災対策課職員から他の地域の被災状況等の地域活動支援情報（印刷物）を入手し，自転車で住民活動拠点（山田公民館）の本部長他へ報告
- 7) 防災倉庫器具使用訓練の進行状況を見て，本部長よりグループ避難の指示あり（避難方法，避難経路等）。その指示を受けて，住民へ避難方法・避難経路（本部長指示）の伝達，避難誘導を行う。

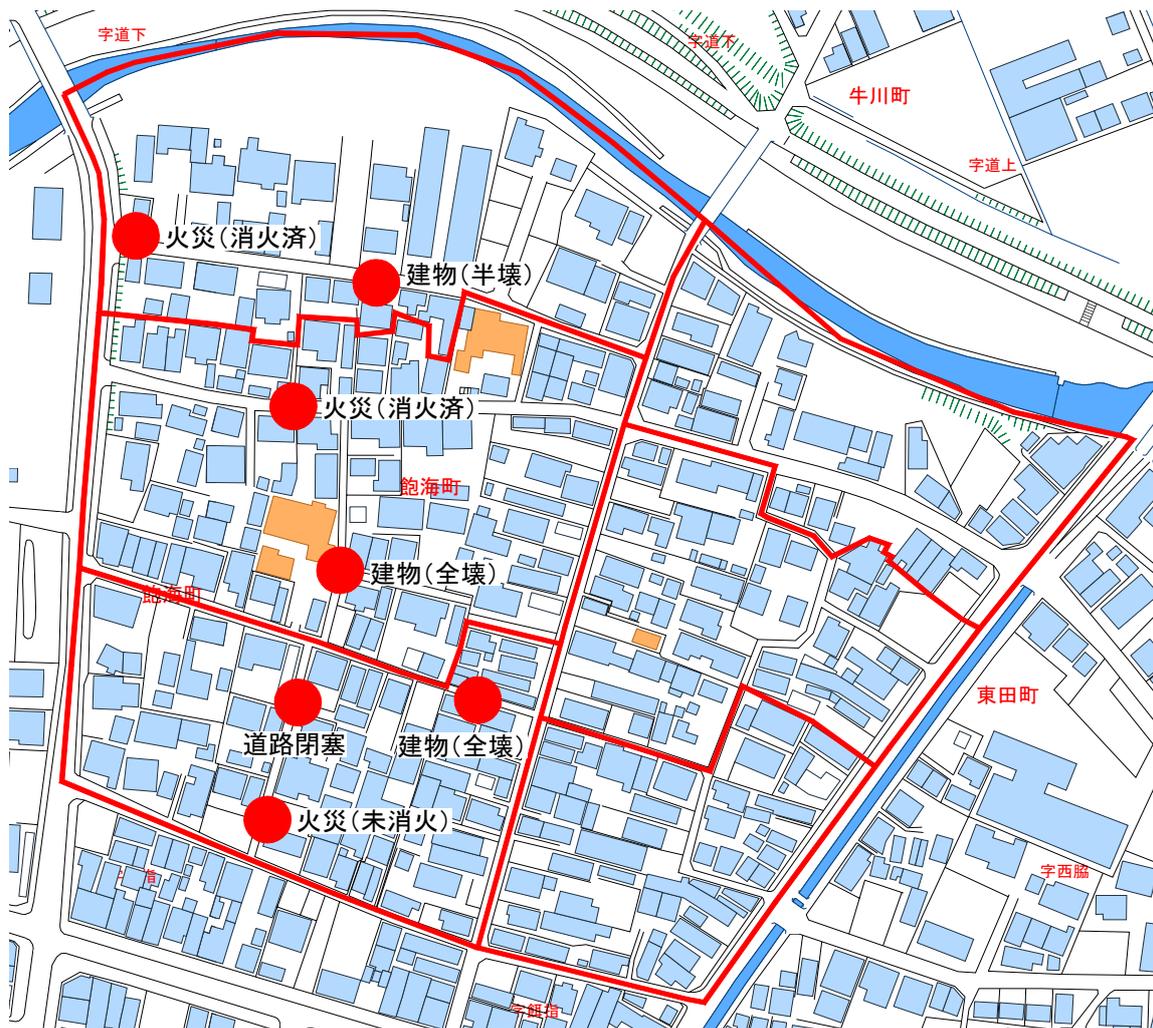


図5 被災マップの作成例（マップのサイズはA3サイズ）

〇〇〇〇〇の被災状況集約表（表1）

記入者： _____

記入日時： _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分

確認者： _____

グループ	建物被害			火災被害			道路被害	報告者(被害情報収集担当者)
	被害 総数	被害の程度		被害 総数	初期消火		被害 総数	
		全壊	半壊		済	未		
○								
△								
□								
総計								

〇〇〇〇〇の避難状況等集約表（表 2）

記入者(避難状況): _____

記入者(災害時要援護者): _____

記入日時: _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分

確認者: _____

グループ	避難状況		災害時要援護者の安否確認情報														
			安否確認済(避難:避難所)				安否確認済(避難:自宅,その他)				安否未確認						
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女					
○																	
△																	
□																	
総計																	

避難者名簿作成・避難情報集約担当者（住吉，加藤）の動き・役割

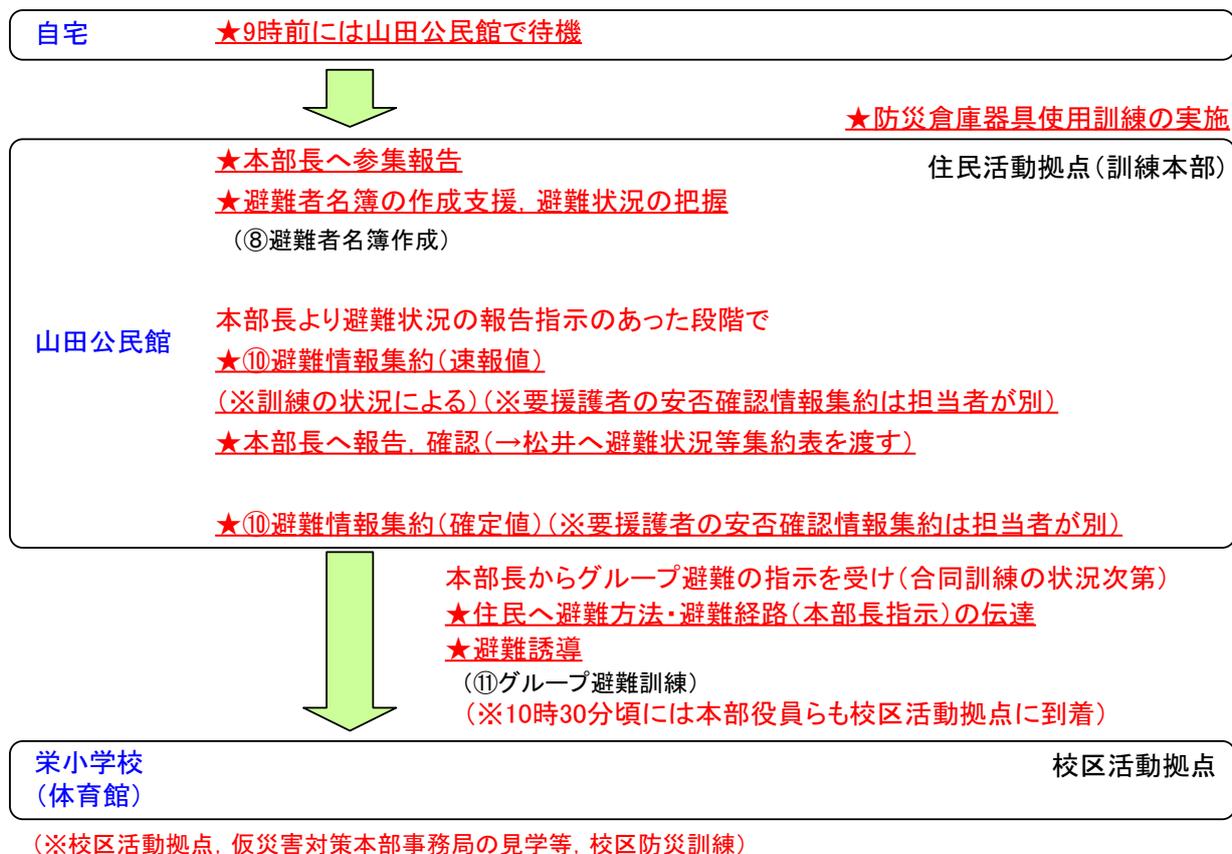


図6 避難者名簿作成・避難情報集約担当者の動きと役割の概要

訓練詳細

- 1) 9時前には住民活動拠点（山田公民館）に待機
- 2) 住民活動拠点（山田公民館）へ避難してきた住民へ各グループに分かれて避難者名簿に「氏名」と「性別」を記入するように指示（表3），名簿作成支援，避難状況の把握
- 3) 校区活動拠点報告用の被災マップおよび被災状況集約表が完成し，本部長が確認した段階で本部長から避難状況（速報値）の集約の指示あり。指示に従い，その段階での避難状況を集計し（おおまかな値でかまわない），避難状況等集約表（速報値）（表2参照）を作成。
（※訓練の状況による。無理な場合は速報値がなくてもかまわない）
- 4) 本部長が確認後，校区防災拠点への報告者（松井）へ渡す
※報告者（松井）が避難状況等集約表（速報値），ならびに校区防災拠点報告用の被災マップと被災状況集約表を持って校区活動拠点の防災対策課職員へ報告
（※訓練の状況による。無理な場合は速報値がなくてもかまわない）
- 5) 住民の避難が終了したと判断した段階で避難状況等集約表（確定値）（表2参照）を作成。
グループ避難の際に集約表は校区活動拠点へ持参，校区活動拠点へ報告（本部長）。
- 6) 防災倉庫器具使用訓練の進行状況をみて，本部長よりグループ避難の指示あり（避難方法，避難経路等）。その指示を受けて，住民へ避難方法・避難経路（本部長指示）の伝達，避難誘導を行う。

避難者名簿(グループ番号:____)(表3)

No	氏 名 (ひらがな可)	性 別
1		男・女
2		男・女
3		男・女
4		男・女
5		男・女
6		男・女
7		男・女
8		男・女
9		男・女
10		男・女
11		男・女
12		男・女
13		男・女
14		男・女
15		男・女
16		男・女
17		男・女
18		男・女
19		男・女
20		男・女

計 男: 名 女: 名 (月 日 時 分 現在)

**要援護者の安否確認・避難指示，要援護者情報集約担当者
（民生委員：吉田，鈴木，中川，長坂）の動き・役割**

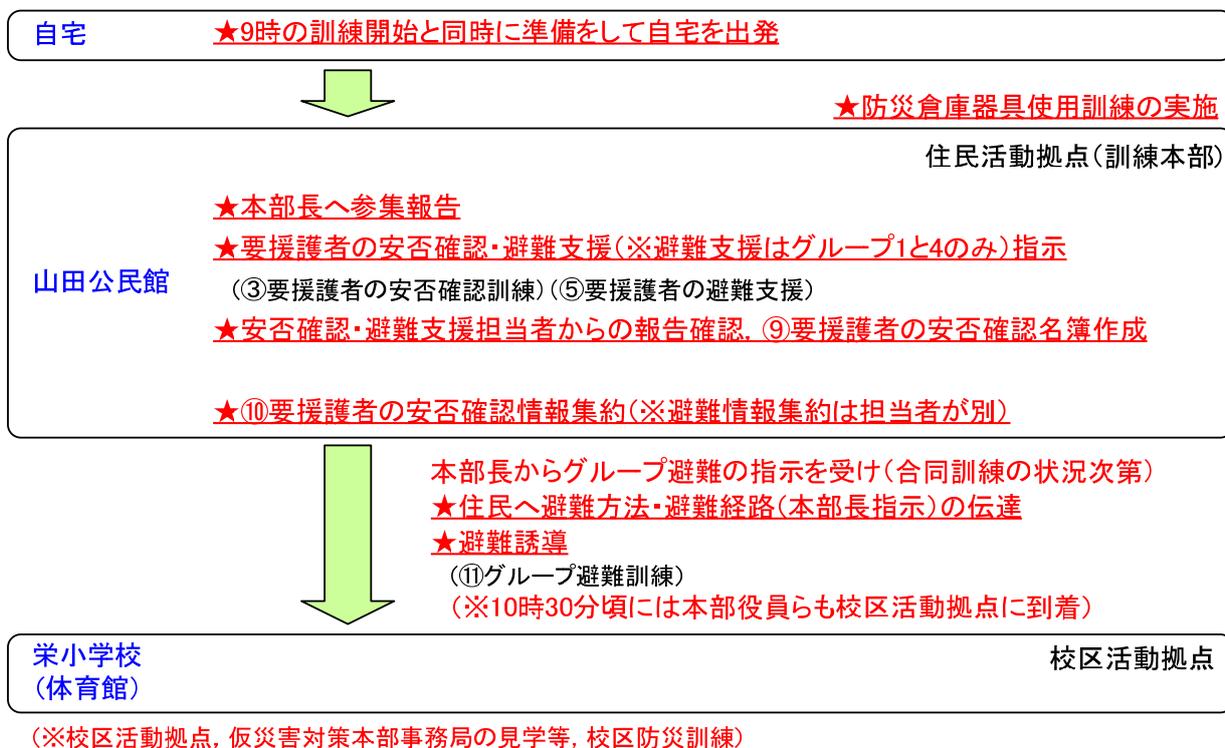


図7 要援護者の安否確認・避難指示，要援護者情報集約担当者の動きと役割の概要

訓練詳細

- 1) 9時に自宅から住民活動拠点（山田公民館）へ参集，本部長へ参集報告
- 2) 要援護者の安否確認・避難支援担当者（グループ1，4：2名ずつ）には，該当する要援護者宅へ行き，安否の確認と，担架や車椅子を利用した避難支援を行うように指示。
- 3) 要援護者の安否確認・避難支援担当者（グループ2，3，5，6：1名ずつ）には，該当する要援護者宅へ行き，安否の確認を行うように指示。
- 4) 上記の担当者からの安否確認報告・避難報告を受け，要援護者の安否確認名簿へ記入（表4）。
- 5) 要援護者の安否確認情報の集約を行い，避難状況等集約表を作成（表2参照）
- 6) 防災倉庫器具使用訓練の進行状況を見て，本部長よりグループ避難の指示あり（避難方法，避難経路等）。その指示を受けて，住民へ避難方法・避難経路（本部長指示）の伝達，避難誘導を行う。

災害時要援護者の安否確認名簿（表4）

No	グループ	氏名（ひらがな可）	性別	安否確認	避難状況(安否確認済)
1			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
2			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
3			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
4			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
5			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
6			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
7			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
8			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
9			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()
10			男・女	未・済	自宅・避難所)・その他()

計 安否確認済(避難状況:自宅) 男: 名 女: 名

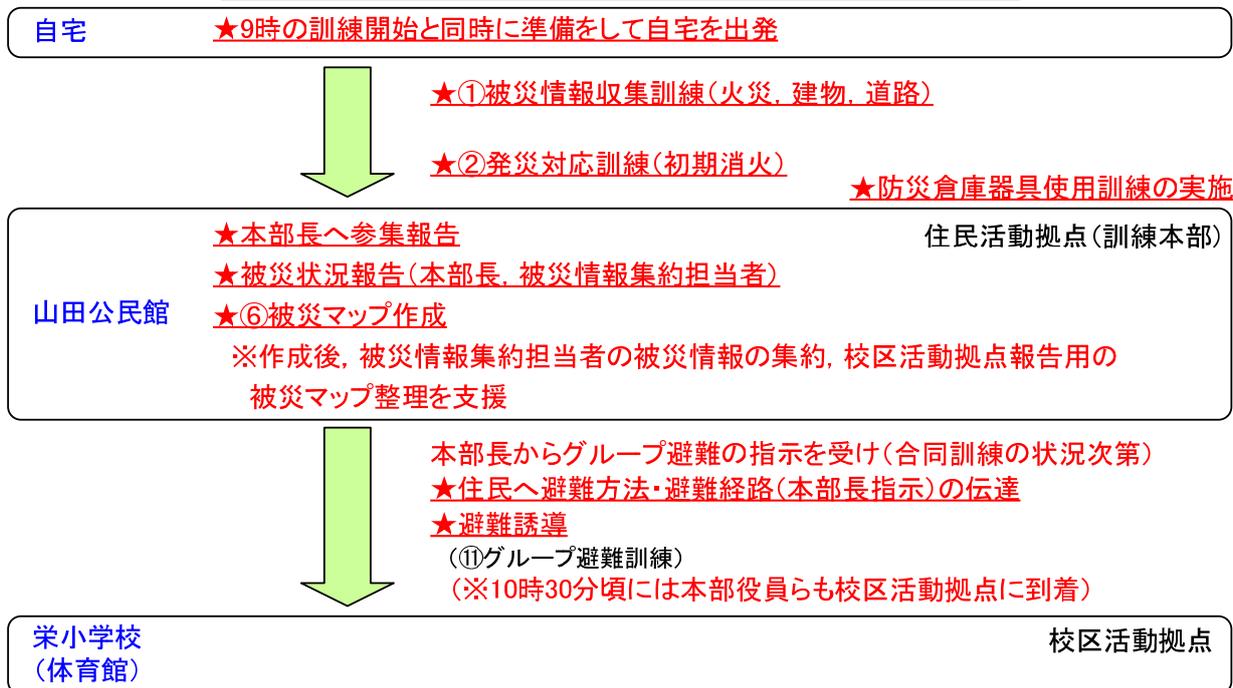
安否確認済(避難状況:避難所) 男: 名 女: 名

安否確認済(避難状況:その他) 男: 名 女: 名

安否未確認 男: 名 女: 名 (月 日 時 分 現在)

被害情報収集・被災マップ作成担当者

(中山, 和田, 寺沢, 尾藤, 村田, 松井)の動き・役割



(※校区活動拠点, 仮災害対策本部事務局の見学等, 校区防災訓練)

図 8 被害情報収集・被災マップ作成担当者の動きと役割の概要

- 被害情報は、火災被害、建物被害、道路被害、の3種類とし、看板を電柱に設置(図9~13)
- 各グループ内に2~3箇所被害情報を設置。そのうち、1カ所は火災被害。
- 被害情報の記憶のしかたは、建物被害であれば「〇〇さんの家の前に建物被害があり、被害の程度は全壊(または半壊)」、火災被害であれば「〇〇さんの家の前に火災被害があり、初期消火活動により消火できた(または消火できなかった)」、道路被害であれば「〇〇さんの家の前の道路は通行できない」といった程度。

訓練詳細

- 9時に自宅をでて、担当グループ内(図1参照)を20分程度巡回しながらメモ等とらずに記憶のみで被害情報の収集を行う。なお、道路閉塞の看板がある道路は迂回。
- 火災被害の看板前で発災対応訓練が実施されていれば、訓練に参加。火災被害の看板がある場所で訓練が実施されてなければ、周辺の住民へ訓練参加を呼びかけ、訓練に参加。発災対応訓練の結果(消火済, 未消火)を確認。(発災対応訓練は17ページを参照)
- 建物被害は、被害情報のある場所と、建物被害の程度(全壊, 半壊)を記憶
- 火災被害は、被害情報のある場所と、発災対応訓練の結果(消火済, 未消火)を記憶
- 道路被害は、被害情報のある道路を記憶
- 担当者は、山田公民館へ到着後、本部長へ参集報告、また本部長・被災情報集約担当者へ被災情報報告、被災マップの作成にとりかかる
- 被災マップはA3サイズの地図(グループごとに準備、別紙1)を使用し、記憶を基に被害情報があった場所に被害の種別(火災被害, 建物被害, 道路被害)を地図上に記入

(図14)。建物被害については被害の程度(全壊, 半壊)もあわせて記入し, 火災被害については発災対応訓練の結果(消火済, 未消火)もあわせて記入(図14)。

- 8) 被災マップを作成後, 被災情報集約担当者へ渡し, 被災情報の集約, 校区活動拠点報告用の被災マップ整理を支援(※可能な限り迅速に行う)。
- 9) 防災倉庫器具使用訓練の進行状況を見て, 本部長よりグループ避難の指示あり(避難方法, 避難経路等)。その指示を受けて, 住民へ避難方法・避難経路(本部長指示)の伝達, 避難誘導を行う。



図9 被害看板の設置の様子

文部科学省科学技術振興調整費 重点課題解決型研究プロジェクト	文部科学省科学技術振興調整費 重点課題解決型研究プロジェクト
防災訓練	防災訓練
建物(全壊)	建物(半壊)
防災訓練 豊橋市 豊橋技術科学大学 工学院大学	防災訓練 豊橋市 豊橋技術科学大学 工学院大学

図10 建物被害の看板(左: 建物被害の程度が全壊, 右: 建物被害の程度が半壊)

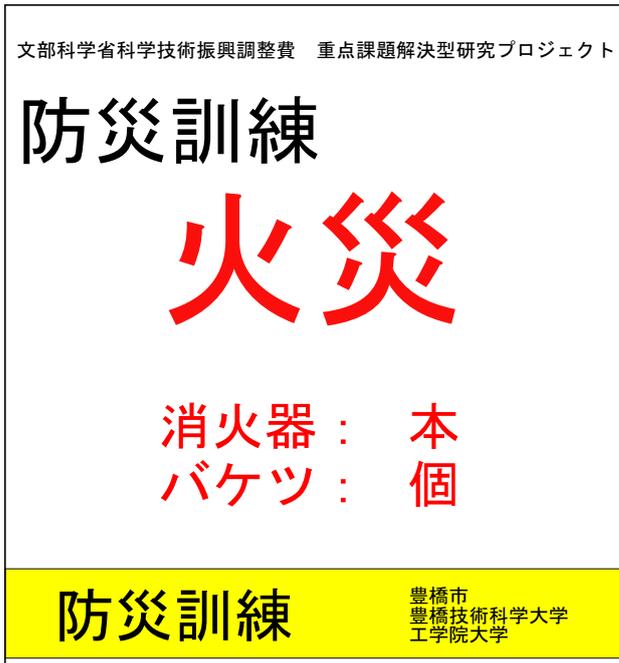


図 11 火災被害の看板

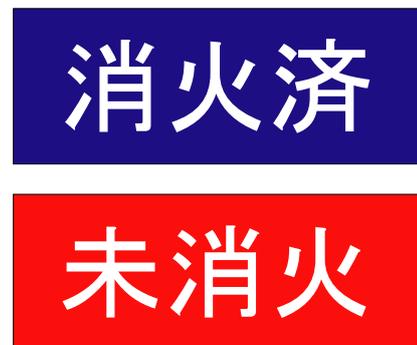


図 12 発災対応訓練の結果
(上：消火済，下：未消火)

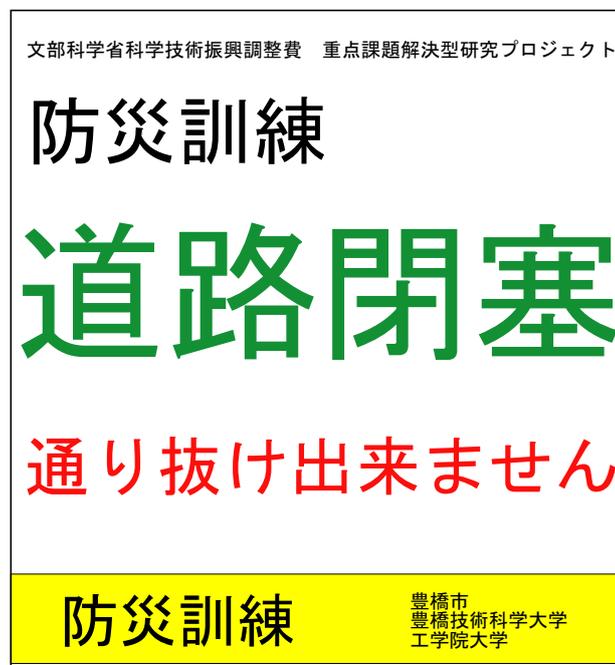


図 13 道路被害の看板

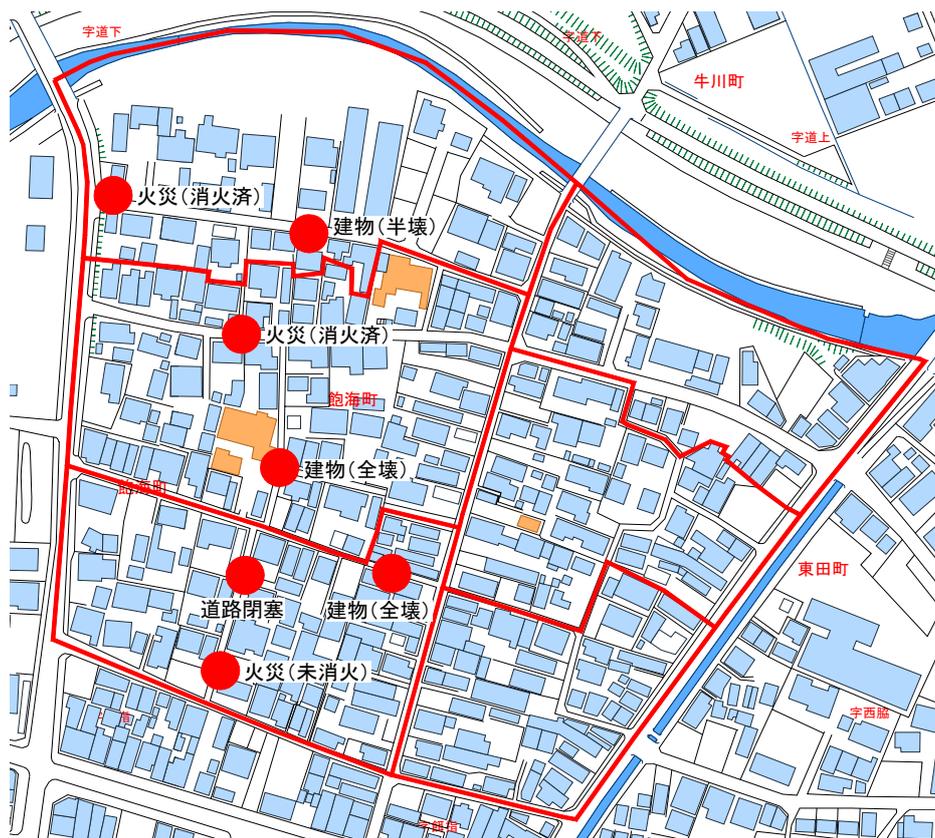


図 14 被災マップの作成例 (マップのサイズは A3 サイズ)

発災対応訓練担当者（各グループ3名）の動き・役割

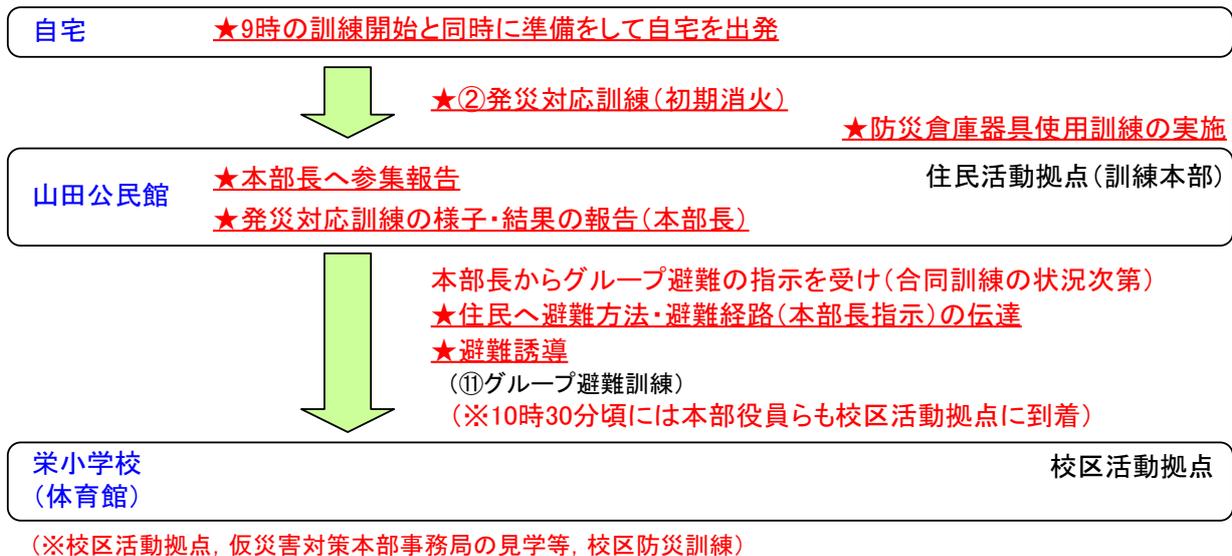


図 15 発災対応訓練担当者の動きと役割の概要

- ・ 火災被害の看板（図 11 参照）がある場所を実施（各グループ 1 カ所）
- ・ 訓練内容は，消火器とバケツを利用した初期消火模擬訓練
- ・ 看板発見から 10 分を目途に消火（スタッフが記録）
- ・ 訓練実施場所にはスタッフが 1 名待機（時間計測，記録）

訓練詳細

- 1) 火災被害の看板を最初に発見したら，みんなに呼びかけ協力しながら，看板に記載されている「消火に必要なバケツの数と消火器の数」を看板の前に集める（図 16 参考）。
※決して担当者のみで訓練を実施しない。地域住民の協力を得ながら訓練を遂行。
- 2) バケツは，現場周辺の方から借り，バケツの中には水を入れて持ってくる。消火器は，街頭に設置されているものを集めてくる。
- 3) 10 分以内に上記が完了すれば，「消火済」のステッカーが貼られ，初期消火は成功。10 分が経過しても上記が完了していなければ，「未消火」のステッカーが貼られ，初期消火は失敗（図 12 参照）。時間はスタッフが計測。
- 4) 訓練終了後，バケツと消火器は持ってきた人に各自返却するように指示（スタッフも支援）。
- 5) 返却後は住民活動拠点（山田公民館）へ避難し，避難者名簿への記入，住民活動拠点（山田公民館）での訓練の様子の見学，防災倉庫器具使用訓練への参加を指示
- 6) 住民活動拠点（山田公民館）へ到着後，本部長へ参集報告，訓練の様子と結果を報告
- 7) 防災倉庫器具使用訓練の進行状況を見て，本部長よりグループ避難の指示あり（避難方法，避難経路等）。その指示を受けて，住民へ避難方法・避難経路（本部長指示）の伝達，避難誘導を行う。



図 16 発災対応訓練の例（消火器とバケツを使用した例）

住民の方の防災訓練の流れ（本部長他・担当者以外）

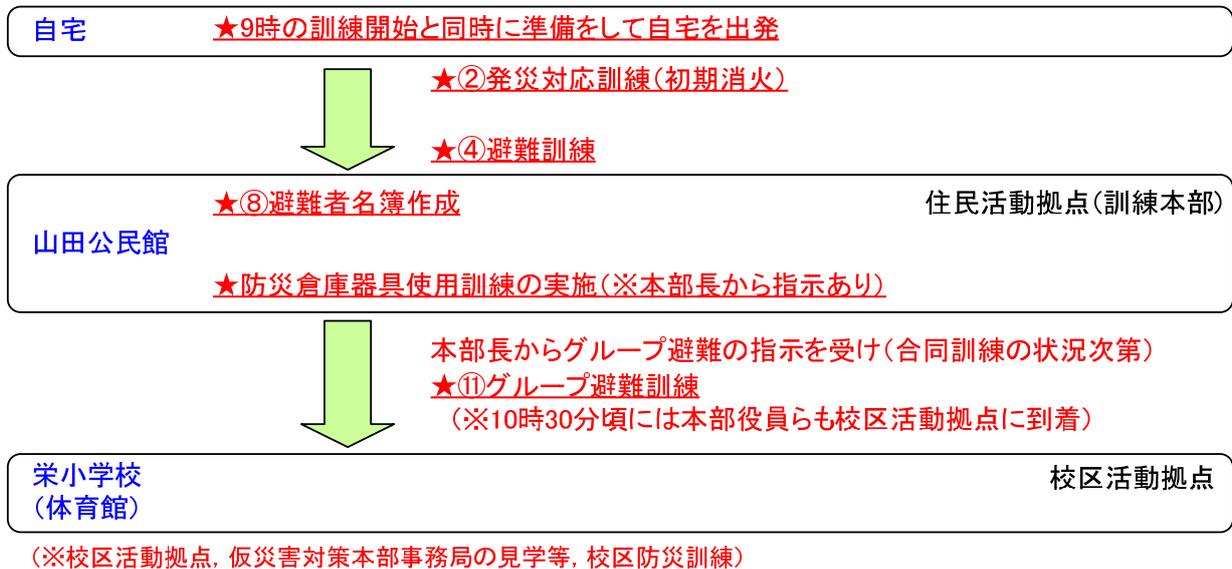


図 18 住民の方の防災訓練の流れ

訓練の流れ

- 1) 9時の訓練開始と同時に準備をして自宅から避難開始
- 2) ご自分の属するグループ内（図 1 参照）を巡回し、火災被害の看板（図 19）を探す（各グループに 1 カ所設置）。なお、道路閉塞の看板がある道路は迂回。
- 3) 火災被害の看板を発見したら、周辺の方に呼びかけ協力しながら初期消火を模擬した発災対応訓練を実施・参加（最大 10 分）。訓練場所では担当者（各グループ 3 名）からの指示あり（※図 18②発災対応訓練（初期消火））。
- 4) 発災対応訓練が終了したら、担当者の指示に従い、バケツと消火器は持ってきた人が各自返却（スタッフも支援）。
- 5) 返却後は住民活動拠点（山田公民館）へ避難し、各グループのテーブルに行き、避難者名簿に「氏名」と「性別」を記入（表 5 参照）（※図 18⑧避難者名簿作成）
- 6) 記入後、住民活動拠点（山田公民館）での訓練の様子の見学、防災倉庫器具使用訓練へ参加
- 7) 本部長から避難の指示があったら、各役員らが協力して避難方法・避難経路を伝達するので、それによって山田公民館から栄小学校までグループ避難。（※10 時 30 分頃には本部役員らも校区活動拠点に到着予定）（※図 18⑩グループ避難訓練）

「②発災対応訓練（初期消火）」について

- ・火災被害の看板（図 19 参照）がある場所で実施（各グループ 1 カ所）
- ・訓練内容は、消火器とバケツを利用した初期消火模擬訓練
- ・看板発見から 10 分を目途に消火（スタッフが記録）
- ・訓練実施場所にはスタッフが 1 名待機（時間計測、記録）

訓練詳細

- 1) 火災被害の看板を最初に発見したら、みんなに呼びかけ協力しながら、看板に記載されている「消火に必要なバケツの数と消火器の数」を看板の前に集める（図 21 参考）。
- 2) バケツは、現場周辺の方から借り、バケツの中には水を入れて持ってくる。消火器は、街頭に設置されているものを集めてくる。
- 3) 10 分以内に上記が完了すれば、「消火済」のステッカーが貼られ、初期消火は成功。10 分が経過しても上記が完了していなければ、「未消火」のステッカーが貼られ、初期消火は失敗（図 20）。時間はスタッフが計測。
- 4) 訓練終了後、バケツと消火器は持ってきた人が各自返却（スタッフも支援）。
- 5) 返却後は住民活動拠点（山田公民館）へ避難し、避難者名簿への記入、住民活動拠点（山田公民館）での訓練の様子の見学、防災倉庫器具使用訓練への参加

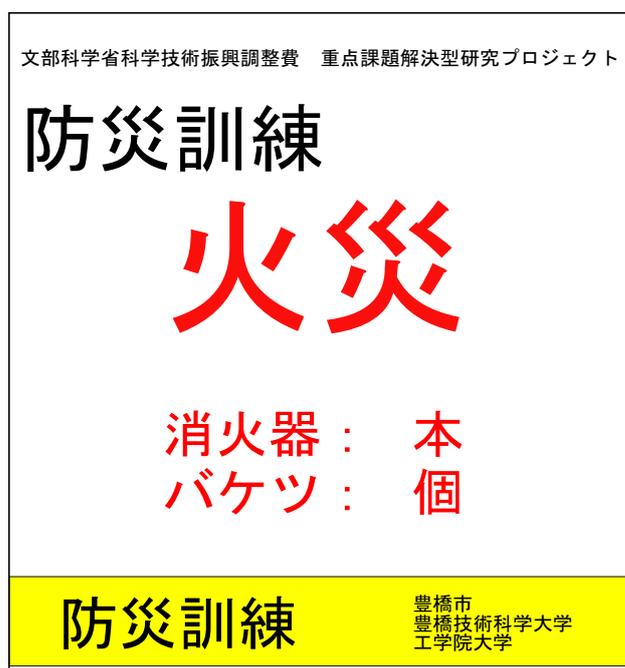


図 19 火災被害の看板



図 20 発災対応訓練の結果
(上：消火済，下：未消火)



図 21 発災対応訓練の例（消火器とバケツを使用した例）

避難者名簿(グループ番号:____)(表5)

No	氏 名 (ひらがな可)	性 別
1		男・女
2		男・女
3		男・女
4		男・女
5		男・女
6		男・女
7		男・女
8		男・女
9		男・女
10		男・女
11		男・女
12		男・女
13		男・女
14		男・女
15		男・女
16		男・女
17		男・女
18		男・女
19		男・女
20		男・女

計 男: 名 女: 名 (月 日 時 分 現在)

その他

- ① 訓練当日は、地域内で実施されている防災訓練の様子を取材カメラが撮影しているかもしれませんが、カメラを気にせず、普段通り訓練を実施してください。
- ② 地域内には幾つかの被害状況を想定した看板を設置しておりますが（図 22）、実際の被害とは無関係ですので、ご理解のほど、宜しくお願いいたします。
- ③ 地震時には建物やブロック塀の倒壊により通行できなくなる道路が地域内の至るところで発生することが予想されます。道路閉塞の看板がある道路はそうした状況を模擬的に想定したものですので、道路閉塞の看板がある道路は迂回してください（図 22）。

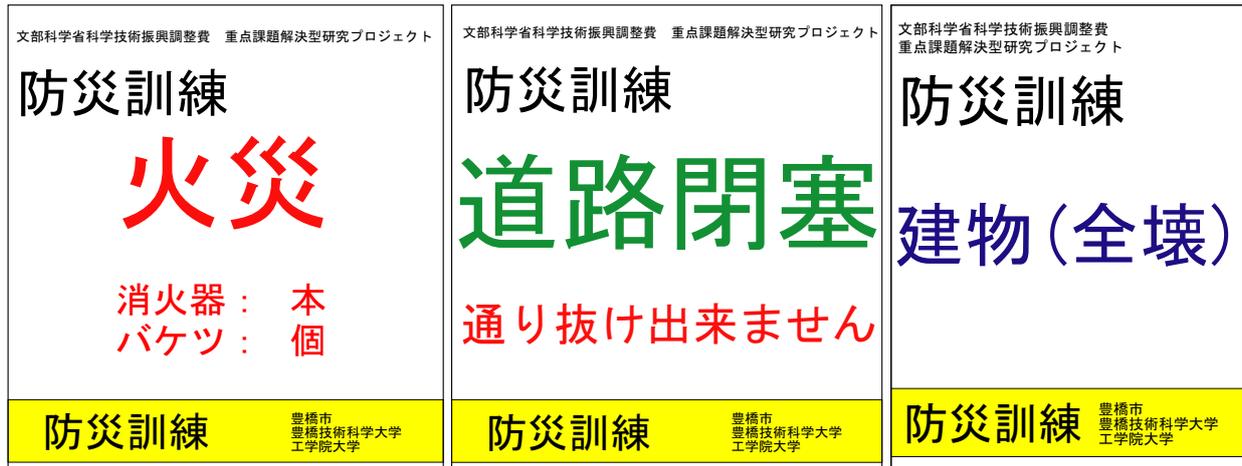


図 22 被害看板（左：火災被害，中央：道路閉塞，右：建物（全壊））

